

登録団体紹介

二つの名取を結ぶ会



伊予の名取（位置図）

登録団体紹介5月号は、もう一つの「名取」との交流を深めている「二つの名取を結ぶ会」の代表に団体の活動を紹介いただきました。

おいたち

2015年の夏、話に聞く“伊予の名取”を訪ねることができました。そこは愛媛県佐田岬半島の西はすれ宇和海が広がりミカンの花が美しい集落です。400年前、仙台藩名取郷の住人が伊達秀宗公（藩祖・政宗公の長子、宇和島藩初代藩主）に同行し、軍馬の育成と海上警護の役目を担ってそこに住み、その地を出身地に因んで“名取”と名づけたといわれています。その子孫にあたる名取の集落の人たちは初めての訪問者を温かく迎えてくれ、「私たちもご先祖の故郷を訪ね、そこに住む人たちと交流したい」と言われたのです。

帰った後、その話を仲間に伝え、同年11月、「二つの名取を結ぶ会」が結成されました。設立の趣旨には、二つの名取の交流を通して両地区の親睦と文化の向上に寄与すると謳われています。

活動の経緯

翌2016年4月、名取集落の元区長・木村公志さんを講師に招き、“伊予の名取の今昔”と題して「第1回歴史講話会」が名取市市民活動支援センターで開催されました。会場には多くの名取市民が訪れ、異郷の地に暮らす同胞の話に耳を傾けました。同年5月、「クロマツの記念植樹」が伊予の名取で行われました。これには名取市民16名が参加し、10本の“縁結びの松”を現地の人たちと一緒に植えました。その年の11月には、市民活動支援センターで開催された「わくわくフェスタ」の会場に“伊予の名取・紹介コーナー”を設け、市民に“伊予の名取の”存在を知っていただくよう努めました。

翌2017年1月、“伊予の名取”を深く知る目的で集落の空き家を借り、一ヶ月間、現地での生活体験を通して集落の皆さんと交流しました。そして同年8月、かねてより二つの名取の交流に関心を寄せていた尚綱学院大学の鳥羽妙先生と生徒たち11名が“伊予の名取”を訪問しました。

3日間の短い滞在期間ではありましたが、この訪問は、「若い女の子の笑い声を聞くのは何年ぶりかとう・・・」と、集落のお年寄りを感激させました。11月には「第2回歴史講話会」を名取市愛島公民館で開催、同月行われた「わくわくフェスタ」にも参加して、着実に広報活動を進めています。



木村さんのガイドで名取集落視察の様子



尚綱学院大学の皆さんと名取小学校跡地にて

これから

三年前、初めて“伊予の名取”を訪ねた折り、集落の長老から『祝！名取生誕400年』と染抜いた記念タオルを手渡されました。この言葉に表された集落の人たちの思いを知る時、私たちは“二つの名取”の意味を考え、行動していかなければと認識を新たにします。

この春には、伊予の名取から“ミカンの苗木”が送られて来ました。

問合せ先 二つの名取を結ぶ会

名取市関上字昭和41-2 W30 街区6画地

TEL 090-7066-6014 (代表 大橋)